

## 中学校

学年	教科等	単元名等	内容
全	集会		全校集会等での生徒の呼び名を男女とも「～さん」と呼んでおり定着してきています。
1	道徳	母の反撃	家事は母(女)がやるべきことか？ この問いについて資料を通して考えた。 家庭における役割分担、男女がどのようにかかわっていくべきかを話し合う。また自分の実践していることなどを発表しあう。
2	道徳	母の反撃	家で母親があたりまえのようにやっていることにどんなものがあるかを考える その仕事は本当に母がしなくてはいけないことなのか考える 母だから女性だからという理由は関係ないのではないかとということに気づかせ、自分にもできることがあるということを考えさせた。
	道徳	異性の友人との関わり	性に関する指導 1組の中学生カップルのやりとりを例に、そのカップルのつきあい方をワークシートを用いて、個人やグループワークにより考える(4つの観点を設定) グループで出た意見をまとめ「大切な度合いランキング」というつきあう上での優先順位を完成させる。その後、グループごとに発表をしてクラス全体で意見を共有する。 最後に中学生らしい交際の仕方について、欲求の面、金銭的な面、デートDVについて触れまとめを行った。 この指導を通して男女がお互いの尊厳について考える機会とし、お互いを尊重すること、自分らしさを大切にすることを学んだ。 生徒の感想からお互いを大切に、思いやりをもつ気持ちについて改めて考える機会となったと感じる。
	英語	Universal Design	・“Universal” means “for all people” 「ユニバーサル」とは「すべての人々のため」ということ。 ・Public spaces and public transportation should be useful for everyone. 公共の場や交通機関はすべての人々にとって便利であるべき というような内容から妊婦や子どもづれの女性などに対しても優しい、生活しやすい環境とはどんなものか考えた。 (1年国語「ユニバーサルな心を目指して」についても同様の学習を行った)
	保健体育		授業の最初ウォーミングアップで女子の集団が大きな声でがんばっていた。男子だから女子だから声が大きい、小さいということはなく男子も女子も関係なく一生懸命取り組むことが大切だと知った。
3			清水病院の産婦人科の先生から「ライフプランに必要な性の知識」という講話で、自分で自分の体を守っていくために必要な知識やライフプランをもつことの大切さを学習した。
	社会	人権と共生社会	公民的分野の学習で、男女平等について女性の30代で働く割合が低下しているグラフから女性も育児と仕事を両立できる社会についてマタハラの記事から問題点について考えました。
	社会	人権と共生社会	・女性の差別をなくすために「男女雇用機会均等法」や「男女共同参画社会基本法」が制定されている事を知り、女性が男性と対等に活動できる社会をつくっていくにはどんなことが必要であるかを考えた。 ・賃金の差や働く割合が下がる原因として女性が出産や育児で社会に出て行きにくいことに気づくことができた。
	社会	私たちのくらしと人権	平等権・男女差別 ・これはあっていい「ちがいがあってはいけない」「ちがいがか」 ①バス運転手男子募集 ②男子の持久走は1500m女子は800m ・班で話し合ってみよう ・次の言葉であなたはどんな人をイメージする？ 「社長」「ナース」「医者」「保育士」 自分の中にある「決めつけ」「偏見」の種に気づき、男女共同参画社会を実現するために必要なことに気づく。
	社会		平等権を学ぶ中でその話題にふれた。
	短学活		2014年ノーベル平和賞を受賞したマララさんのことを取り上げ、彼女が訴えている男女平等社会について話をしイスラム社会について考えさせた。
	短学活		12月の衆議院選挙の際、日本では女性の政治家が少ないこと、政治家になりにくい社会であることを話し、生徒の意見を求めた。
	保健体育		第二次性徴の特徴を通して男女の違いを意識しながら互いに思いやること助け合うことの大切さを学んだ。
	家庭科		家の仕事調べていくことを通して、男女の性別に関わらず家事を分担することの大切さを学んだ。
	総合		職業調べの中で男の職業、女の職業という先入観をもたないよう指導した。
	道徳		男女平等の原則に立って男女は互いに相手を正しく理解し、お互いの人権を尊重しあう心情を考えた。